

あけぼの杉

初代同窓会会長 藤田啓介博士筆

藤田学園同窓会

住 所 豊明市沓掛町田楽ヶ窪
1番地 98
発行人 藤田学園同窓会
発行日 令和4年12月25日



創設者藤田啓介総長の銅像

目次



P. 2	藤田学園同窓会会長ご挨拶	P. 12	3月：藤田医科大学看護専門学校閉校
P. 3	学校法人藤田学園理事長ご挨拶	P. 13	4月：三重大学・浜松医科大学と 医療連携協定を締結 2022年度 入学式
P. 4	藤田医科大学学長ご挨拶		5月：フジタ モール グランドオープン!!
P. 5	藤田医科大学病院病院長ご挨拶		6月：THE Asia Universities Summit 2022 開催報告 ALL Fujitaのチカラ
P. 6	学園の1年 9月：ECMOカー 中部地方初導入	P. 14	6月：フジタEXPO2022
P. 7	10月：ばんたね病院 新棟建設 vol.2 スマートホスピタル実現に向けた サービスロボット実証実験を開始	P. 15	9月：コメディカル形態機能学会奨励賞 を受賞して
P. 8	11月：各拠点で防災訓練を実施	P. 18	2022年3月国家試験結果
P. 9	12月：JOURNEY TO JCI 2021 -WITH FUJITA QUALITY-	P. 19	P. 20~21 恩師からのお便り
P. 10	1月：星長理事長ら学園首脳陣が岸田総理と官邸で会談 画像診断コンテスト「画論29th The Best Image」 で最優秀賞を受賞		P. 22 同窓会からのお知らせ
P. 11	2月：スマートホスピタル実現に向けた サービスロボット実証実験（フェーズ2）を実施	P. 23 総会議事録	P. 24 2023年度入学試験スケジュール
	3月：医療科学部医療経営情報学科 閉学科		



「故藤田啓介総長の銅像に想う」

一般社団法人藤田学園同窓会 会長
松山 裕宇 (医学部6回生)

卒業生の皆様におかれましては、お忙しい日々をお過ごしのことと拝察いたします。昨年のあけぼの杉がお手元に届いた頃は、新型コロナ感染第6波到来を心配しておりました。そして今年もまた、終息しきらない状態で第8波を危惧する日々です。新型コロナ感染症に翻弄されて3年間、日々の医療業務の負担に耐えながら現場に携わっておられる皆様の社会貢献に対しまして、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

さて、令和4年10月18日に故藤田啓介総長の銅像除幕式が執り行われました。この席には、銅像の作者である山本真輔先生（日本藝術院会員、日展理事）も参加されました。この日は晴天ながらも強風が吹き荒れており、銅像を蔽った白布を飛ばされないよう抑え、何度も修復し、参列者用テントが強風で倒れないよう皆で支え合いながら執り行われた除幕式でした。その光景は、まるで故藤田総長から「まだまだ困難に立ち向かっていかないといけない・・・」と叱咤激励され、参加者一同必死に踏ん張る、まさにALL Fujitaを象徴する光景でした。

山本先生からは故藤田先生とのエピソードが披露されました。ご自身がお若い頃に制作された彫刻作品を、偶然通りかかり目にされた故藤田先生が作品に興味を持たれて山本先生に直接会いに行かれ、患者様の癒やしと学生の情操教育のために病院やキャンパスに「生命」と「祈

り」をテーマにした彫刻像の作製をお願いされたそうです。随分、無理難題な注文を指示されたようです。そんな経緯があり、学園にはフジタホール2000北面の「生命的賛歌」像、旧出逢いの泉の「出を待つ」像、プレアデスチャペルの「ひざまずく少女」像、大学2号館ホールの「祈り」など、そして総長逝去後に制作された連帯の滝広場の総長像、フジタホール2000舞台の総長像（同窓会寄贈）などたくさんの彫刻像が飾られています。今更ながら総長の眼力の深さを実感いたしました。自分自身が直感した心の動きを素直に信じ、即座に行動に移す、それらの一連の流れを自分の信念として貫く、そうした心が反映された姿が連帯の滝広場に置かれた銅像というものでしょう。

故藤田総長が眺めておられる藤田学園、藤田医科大学のキャンパスは、とても素敵な空間に生まれ変わりました。卒業生の皆様、是非、大学にお立ち寄りいただき、そのスペースに脚を踏み入れ、銅像にも触れて下さい。皆様に、この新しいスペースにお立ち寄りいただくことで、同窓会の連帯が今後も繋がり続けると信じております。

引き続き、皆様のお力添えを何卒よろしくお願ひ申し上げます。

令和4年11月吉日



祈り



「生命的賛歌」と「ひざまずく少女」



Fujita Vision 2030と社会貢献

学校法人藤田学園 理事長
星長 清隆



創設者 藤田啓介総長 銅像

藤田学園同窓会の皆様、お元気でお過ごしでしょうか。理事長を務めさせて頂いている星長清隆でございます。私が2018年10月に理事長を拝命し4年が経過しました。この間、教職員と一緒にになって学園の改革を進め、施設の充実も積極的に行って参りました。お陰様で医療や研究の質も向上し、教育面においても文科省から高い評価を得られるようになりました。また、新型コロナウイルスへの積極的な対応を行った結果、藤田医科大学の名前は全国的に認知されることとなり、多くの人々からもご評価をいただいたと喜んでおります。

さて、本年度はTHEアジア大学サミットを豊明のキャンパスで6月に開催することができました。本来、この国際会議は2020年6月に開催する予定で取り組んでおりましたが、新型コロナ感染症拡大のため6カ月後に延期となり、さらに延期して2021年6月にオンライン開催となりました。ところがその際に1年後の開催大学がコロナ禍のため未定と判明し、THE社側の賛同も得られましたので本年5月31日から6月2日まで、念願のオンライン開催が実現しました。本会議には24カ国から362名の大学学長や学部長らが参加し、3名のノーベル賞受賞者を含む著名な講演者や教育者が熱心な議論を重ね、大変有意義なサミットとなりました。

一方、2011年から20年計画で始めました豊明校地の改修工事が大幅に工期を縮小して10年余りで完成し、大変、機能的で美しく、しかも耐震化が図られた安全な学園が出来上がったと自負しております。皆様方も是非ご来学頂き、ご覧いただければ幸いでございます。

また、本年4月にFujita Vision 2030を発表いたしました。2015年に作成しました藤田10年Visionは5年余りではほぼ達成出来ましたので、これまでの教育、研究、臨床の3本柱に新たに「社会貢献」という柱を加えて、さらに挑戦的なFujita Vision 2030を多くの教職員の意見を基に作成しました。この社会貢献という項目の追加は、2020年2月に国難とも言うべき新型コロナ禍に

おいて、ダイヤモンド・プリンセス号乗客乗員の開院前の岡崎医療センターでの受け入れや、その後の多くの重症患者の医療やPCR検査、ワクチン接種など、本学職員の社会貢献に対する本気度を再認識し、これこそが私達が最も得意とする領域であろうと判断した事が切っ掛けです。

中部地区では今後30年の間に起こると言われている南海トラフ大地震対策が最重要課題ですが、本学は愛知県の基幹型災害拠点病院に指定されており、大災害が発生した際には人命救助という最も重要な責務を全うしなければなりません。もし想定外に長期間にわたり電力供給が途絶えても、病院機能を継続させる必要があります。電気さえあれば、藤田啓介総長が掘られた地下1000メートルの地下水脈から飲水可能な良質の水を供給し続ける事も出来ますし、ICUやオペ室もずっと稼働させる事が可能です。エネルギーの持続的供給を基軸に、藤田医科大学そのものを災害医療に強い施設にするため、トヨタ自動車、中部電力、川崎重工業、日本ガイシなど各社の理解を得て、震度7程度の巨大な震災が有っても高度の医療が継続できる中核的基幹災害医療病院としての取り組みを既に始めました。2023年度中にはやや大型のドクターヘリが配備されることも決まっており、中部電力の協力により、職員用駐車場にはポーチ屋根を設置し、また隣接する濁池の上にはプラスチック製の筏を浮かべて大規模な太陽光パネル発電が設置される予定で、最低限の電力の供給が出来ますし、日本ガイシの協力で大型蓄電池を敷地内に設置することにより夜間発電も可能となります。さらにトヨタ自動車や川崎重工の応援も得て、水素発電を豊明の敷地内で行う計画も進行中で、全てSDGsにも配慮した災害対策が可能となります。

さらに、本学では災害支援対策の一環として、本年4月より3学部の学生や教職員の災害医療教育を進めており、2年後には全学生や職員が防災士の資格を保有し、オール藤田として災害時に活躍できる体制が整うと思っています。

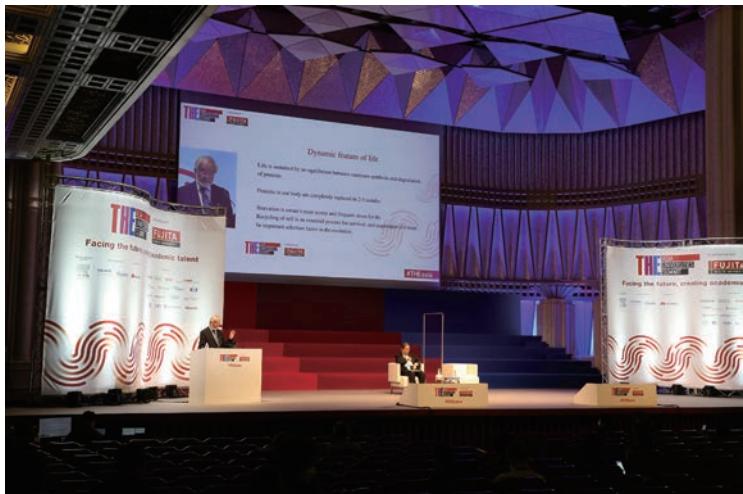
最後のご報告として、2023年10月に東京の羽田空港敷地内に、「藤田医科大学東京 先端医療研究センター」が開設されることをお知らせします。これにより藤田学園の教職員は東海地方のみではなく、関東でも活躍することになります。この施設がオープンすることで国が進める羽田イノベーションシティープロジェクトが完結します。羽田空港に直接飛んで来られる日本人や外国人に、本学が得意とする精密健診や新たに始める再生医療や遺伝子診断、最先端不妊治療などを提供するとともに、高齢者にはより健康な生活を送って頂けるよう、科学的な食事指導や適切な運動などを考慮した「活動長寿」をテーマに、価値のある生活指導などを展開します。

藤田学園は今後も社会情勢の変化に柔軟に対応しつつ、教育、研究、診療・福祉、そして社会貢献で医療系総合大学として常に先頭グループを走り続ける所存です。是非、本学のこれからにご期待ください。



躍進

藤田医科大学 学長
湯澤 由紀夫



THE アジア大学サミット

同窓会の皆様には日頃より藤田医科大学に対し、多大なるご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

藤田医科大学は今年で創立54年を迎えました。また、医学部は設立から50年の節目を迎え、令和5年2月19日に記念式典を計画しております。本年度4月にはフジタビジョン2030を定め、「その時、いちばん動ける藤田学園へ」をキャッチフレーズとして、新たな取り組みを始めました。

2022年6月にはTHEアジア大学サミットを本学で開催いたしました。フジタホール2000をメイン会場としてノーベル賞受賞者や国内外主要大学の学長や有識者が集まり、多くの社会課題の解決に向けて人材育成を含め、いかに大学が取り組むかについて議論いたしました。新型コロナウイルス感染症が一旦落ち着き、渡航が緩和し始めた時期の久しぶりの国際会議となり、主催者、参加者とも非常に感慨深いサミットとなりました。

教育では、大学教育改革の取り組みを評価する「私立大学等改革総合支援事業」に2021年度も選定されました。4領域全てに選定されたのは全国で4大学のみであり、3年連続選定は医療系大学では本学のみとなります。教育の質を向上させる本学の様々な取り組みが評価されたものと考えております。また、各学部の国家資格の合格率も全国に比べ高水準となっております。看護師、臨床検査技師、放射線技師、理学療法士、作業療法士のみならず、特に医学部による最新の調査では、医学部創設以来、学生の95%以上が卒業し、卒業生のほぼ100%が医師国家試験に合格しているという結果であり、本学

に入学すればほぼ医師になれるという誇るべき大学となっています。

研究では、JST「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」の地域共創分野【育成型】に採択され、地域で暮らす高齢者だけでなく、遠方の家族も安心できる「人とIT技術が共生する街づくり」に取り組んでいます。現在、[本格型]への申請の準備中です。また、文科省の橋渡し研究支援機関認定に向けて鋭意取り組んでおります。

また、大学・病院全体の医療情報システムの改革も重要な課題です。国の医療DX2030を見据えて、臨床研究やヘルスケア領域への医療データの二次利用ができる基盤作りに取り組んでいます。

学生のキャンパスライフも一層充実してきました。学生食堂はメニューと価格を一新し、美味しい料理を沢山提供できるように大学もこれまで以上に手厚い支援を始めました。また、キッチンカーの導入も始まりました。学生がのびのびと自主学習できる「ラーニングコモンズ」も完成し、学びの環境も、整ってまいりました。そして、これまで学生から強い要望があったスクールバスの運行が始まりました。これらの取り組みには同窓会の皆様より多くのご支援もいただいており、学生から多くの感謝の声が寄せられています。この紙面をお借りして、改めて感謝申しあげます。

今後も藤田医科大学がさらに発展するよう引き続き邁進をいたす所存でございますので、同窓会の皆様も引き続きご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。



スクールバス前後駅バス停



藤田医科大学病院の近況と将来展望について

藤田医科大学病院 病院長
白木 良一

同窓会の皆様には日頃より藤田医科大学病院に対し、多大なるご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナ感染の蔓延は3年目を迎え、皆様におかれましても日常生活に様々な影響が及びご苦労の事と推察申し上げます。当院でも8月には第7波の影響により診療の一部制限を実施し、患者さん並びに皆様方にもご迷惑をお掛けしました。一方、その間も予定手術の延期や中止はほとんど無く、重症患者さんへの救急要請対応は継続できておりました。その後は早期に通常診療モードに回復し、9月にはほぼ満床の状態が継続しております。このように特定機能病院として高度医療を推進する一方で、地域医療の砦となる基幹病院としての使命も担っています。新型コロナ感染対策には災害医療に準じた体制を構築していますが、自然災害や大地震など有事の際の基幹災害拠点病院として、医療救護活動の要となる役割を果たすべく、インフラ整備を含めた病院強靭化にも取り組んでいます。

診療における新たな取り組みとして、移植・再生医療では2022年2月に中部地方で初、国内では3施設目の臍島移植保険診療施設に認定され、また10月には中部地方で初の肺移植術を成功裡に実施しました。地域にお住まいの患者さんやご家族に遠方に出向く事なく、地元で最新医療を受けて頂ける朗報となります。また、がんゲノム医療においても、血液による検査システム（リキッドバイオプシー）の構築にも着手しました。多くのがんゲノム情報をデータベース化し、院内で迅速にゲノム解析できる体制を整備することにより、個別化医療のさらなる進展を目指しています。

当院は国際的な医療機能評価のJCI認証を2018年に取得しましたが、2021年12月には更新審査にも合格し、安全かつ質の高い医療を継続的に実践しています。安全で質の高い医療を提供するためには、これまで以上にチーム医療が重要になります。そのため、当院の強みであるチーム力を活かした多職種連携・協働による持続可能な医療提供体制の構築と同時に、職員一人ひとりが誇りを持てる、働きがいのある職場づくりにも注力しています。

更なる施設の拡充も進み、2022年5月には患者さんや職員のアメニティ・利便性向上のための施設「フジタモール」がオープンしました。施設内にはデイサージャリーセンターや地域医療における連携病理診断を提供する病理診断センターを開設した他、デイケア、ヘアサロン



ン、レストラン、市民公開講座等も開催できる会議室を設置しました。正面には芝生エリアを整備し、病院の外観の一部として患者さんの憩いの空間となりました。この芝生エリアでは仮設テント等の設置も可能で、災害時には救護のためのトリアージにも活用されます。

2021年より、検体や医薬品など院内物資を搬送するサービスロボットの実証実験を開始しています。12月には最終の実証実験を行い、2023年中のロボット導入を目指しています。これらを含め、病院群全体でデジタル技術活用による医療DXや、AI診断・多目的ロボット・IoTを活用したスマートホスピタル構想実現への取り組みを促進することで、医療の質と患者さんの利便性を向上させるとともに、広域の病診連携の拡充、医療現場における職員の働き方改革、感染症対策など、社会の課題解決に寄与したいと考えています。

大学病院として教育面においては、高い臨床力を持ち、“藤田スピリット”を継承する医療人の育成にも継続的に努めています。今後も「チームFUJITA」一丸となり、藤田ならではの“やさしさの医療”と、安全で質の高い医療を提供できる人材を養成していくことで、地域社会および医学・医療の進歩に貢献してまいります。

同窓会の皆様におかれましては、何卒引き続きのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2021年9月

藤田医科大学病院 ECMOカー 中部地方初導入

藤田医科大学病院は、救急医療および集中治療の強化を目的に「ECMOカー」を導入し、9月より試験運用を開始しました。導入は中部地方では初めて、全国では9台目となります。「ECMOカー」により県境を越える重症患者の広域搬送が可能になり、既設の「ドクターカー」との併用で、さらなる救命率の向上をめざします。

ECMOカーは、「走るICU」とも呼ばれ、医師や看護師、臨床工学技士らが乗り込み、集中治療を行なながら搬送できるのが特長です。藤田医科大学病院では、肺移植待機患者や新型コロナウイルス感染症を含めた重症呼吸器疾患、循環器疾患、未熟児などの搬送のほか、交通事故や大規模災害における活用も視野に入っています。ECMO治療において国内でもトップレベルの実績を有する当院がECMOカーを導入することにより、一人でも多くの命を救うとともに国内全体の救急医療・集中治療の向上に貢献することをめざします。

車両の特徴

① 大容量バッテリー

+リチウムイオンバッテリー

生命維持管理装置や搬送用保育器など消費電力が大きい機器を装着しての広域搬送にも対応できるよう、大容量バッテリーとリチウムイオンバッテリーをダブルで搭載。

② 大出力のインバーター

インバーターはメイン1,500W、サブ3,000Wの2基搭載。通常のドクターカーの約15倍の出力が可能です。

③ 作業しやすい患者空間

3、4人でも活動が容易な広めの患者空間を実現。患者室の床はタイヤハウスの出っ張りのない設計となっています。

④ ECMO搬送専用のストレッチャー

医療機器と患者さんが一体となって移動できるECMO専用ストレッチャーを設置。一般搬送用のストレッチャーと2種類の使い分けが可能です。

ECMO専用
ストレッチャー

アップデート用レール

特殊救急車 Tri Heart
(高規格救急車準拠)
車両総重量 5.7t
排気量 2.99L
4WD駆動

⑤ 特注の昇降リフト

後部の昇降リフトは、幅1,200mm、長さ1,450mmのワイド仕様で290kgまでの耐荷重性を持ち、機器を装着したまま安全に搬入出できます。

⑥ 陰圧空間

全ての窓を閉めて換気扇を回転させれば陰圧がかかる仕組みです。また空気は運転席側から患者室側への一方向しか流れないようになっています。

⑦ 医療機器

人工呼吸器・除細動器兼用の心電図モニターと吸引器を壁面に装備。さらに、搬送する患者さんの病状によってさまざまな医療機器が搭載可能。

⑧ アップデート用のレール

右壁面に装着されている長いレールにより新型の医療機器を搭載する場合に内装を容易にアップデート可能。欧米の救急車では多数採用されています。

3,000Wの出力が可能な
リチウムイオンバッテリーを搭載

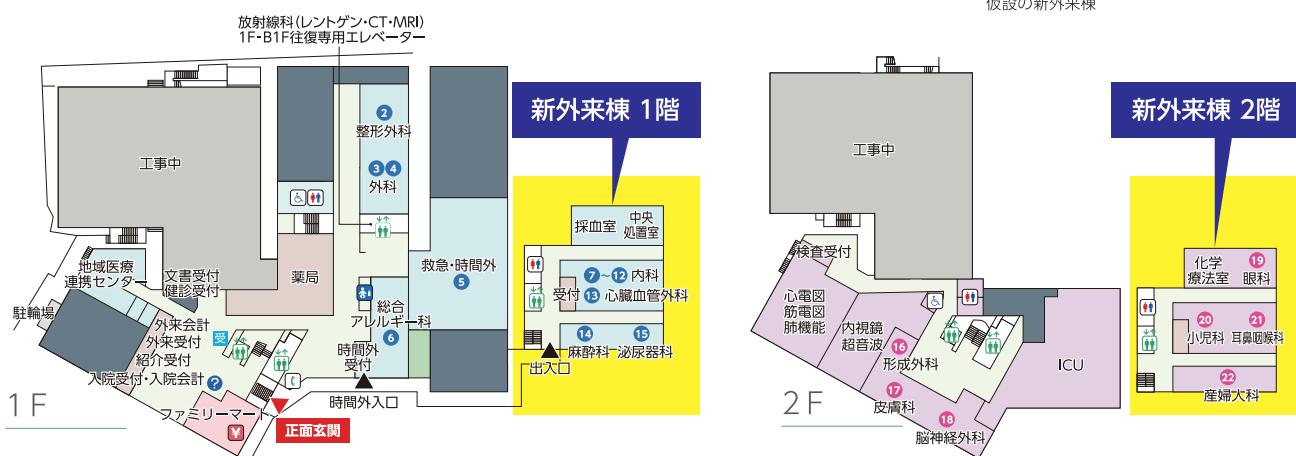


2021年10月

ばんたね病院 新棟建設 vol.2

2023年7月の新棟完成に向けて、外来棟、A棟の解体工事が9月より始まりました。外来棟に入っていた13診療科の外来と採血室、化学療法室などが新外来棟に移設され、8月30日より診療を行っています。

新外来棟は、待合スペースが少ないため、順番が近づくとお知らせメッセージ(SMSショートメール)が届く携帯呼出しシステムを導入しました。携帯電話番号を自動再来受付機で登録し利用するものです。職員が正面玄関入口に常駐し、システムの案内や新外来棟への誘導サポートを行っています。



スマートホスピタル実現に向けたサービスロボット実証実験を開始

10月23~30日の8日間、藤田医科大学病院にて川崎重工業株式会社との産学連携によるサービスロボットの実証実験が行われました。政府が提唱するSociety5.0の具現化および本学が進めるスマートホスピタル構想実現に向けた取り組みの一つで、2022年度の本格導入をめざしています。

実証実験は3段階で構成。今回の実証実験は第1段階で、臨床検査部からA棟とB棟の6階のスタッフステーションまで、サービスロボットに検体を乗せて自律走行し、人や障害物とぶつからず移動できるかなどを確認しました。エレベーターの操作は職員が補助しましたが、2022年1月に実施予定の第2段階ではアーム付きのロボットを使い、病棟での夜間見守りサポートの検証や人の補助なしで階をまたいだフロア間の移動が安全にできるかの検証をしていきます。将来的には、配膳、院内誘導や買い物代行など、活用の幅を順次拡大していく予定です。



臨床検査部内を移動するサービスロボット



本体内部に検体を入れて搬送する



第2段階で使用するアーム付きロボット

2021年11月

各拠点で防災訓練を実施

豊明校地および、ばんたね病院、七栗記念病院、岡崎医療センターで南海トラフ地震を想定した防災訓練が行われました。

豊明校地 11月6日実施

地震発生の一報を受け、法人本部、医学部、医療科学部・保健衛生学部、研究支援推進本部、看護専門学校に防災対策部を設け、藤田医科大学病院には病院災害対策本部を設置。また、昨年まで理事会室に設けていた学園総本部を病院災害対策本部に隣接して設置することで、学園と病院の連携強化を図りました。

総本部には星長清隆理事長、湯澤由紀夫学長、野田憲一統括事務局長と本部総務職員、広報部職員が集まり、各防災対策部で収集した被災状況・安否情報が集約されました。また、基幹災害拠点病院として、災害時にも患者さんの受け入れなど病院機能を維持するために、病院災害対策本部には白木良一病院長をはじめ災害対策チームメンバーが招集され、各部門から集約された被災状況をもとにBCP(事業継続計画)対応を踏まえた災害拠点病院としての受け入れ体制を整えるまでの流れを確認しました。



刻一刻とかわる状況に迅速に対応する災害対策チーム



各部門の現状をホワイトボードに集約

▼ 藤田医科大学病院での実施内容

- ①情報伝達訓練
(各部署の情報収集、被災状況等を総本部へ報告)
- ②BCP対応を踏まえた外部患者の受け入れ体制構築

法人本部・医学部・医療科学部

▼ 保健衛生学部・研究支援推進本部 看護専門学校での実施内容

①災害対策学園総本部との情報伝達訓練



医学部に設置された防災対策部

総括 学園総本部と病院災害対策本部が隣接されたことで情報共有の強化が図れたこと、被災現場を確認しBCP(事業継続計画)対応を取り入れたことは大きな前進と思われます。しかしながら、収集する情報の整理、エレベータ停止の中で本部設置が6階という場所の問題、外部情報を得るためにTVがないなど備品の整備等、今後の課題も浮き彫りになりました。

エマージェンシーコール

エマージェンシーコール(安否確認システム)の訓練を今年も実施しました。豊明校地の教職員と学生まで合わせた回答率は90%でした。

今後、回答率アップをめざした周知・運用を進めていきます。また、エマージェンシーコールの回答をもとに、職員参集の人数と交代タイミングに活用していくことも検討していきます。

2021年12月

JOURNEY TO JCI 2021

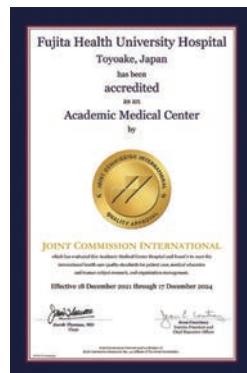
-WITH FUJITA QUALITY-

高評価でJCI認定更新

藤田医科大学病院は、国際的な医療機能評価機関であるJCI(Joint Commission International)の更新審査を受審し、初回時より更に厳しい基準での審査でしたが、見事に基準をクリアし、認定更新されました。2018年8月の初回認定から3年、改めて当院の「医療の質と患者安全」の体制が世界水準であることが実証されたといえます。

審査は12月13～17日の5日間にわたり行われました。新型コロナウイルスの影響により、サーベイナー1名のみが来院し、ほか4名のサーベイナーはオンラインというハイブリッド形式による審査となりましたが、事前のトレーニングを徹底することで要求等にも柔軟に対応することができました。サーベイナーの皆さんからは「全スタッフが“医療の質”と“患者安全”に深くコミットし、その精神が息づいていることを肌で感じた」「大きな努力をされてきたことは明らかで素晴らしい」「貴院は認定によって世界最高の病院の仲間入りを果たした」など称賛の言葉をいただきました。

JCIは世界で最も厳しい医療機能評価機関とされ、認定を取得できるのは世界の上位1～2%の医療施設といわれています。日本では当院を含め約30施設が認定を取得しています。



審査結果について

今回よりJCI新基準(ver.7)が適用となり、審査基準がさらに厳格化。その中で藤田医科大学病院は全1,271の評価項目に対し、一部達成(Partially Met)が25項目、未達成(Not met)が7項目という大規模な病院としてはハイレベルな結果となりました。とくにver.7になって加わった新項目で非常に高い遵守率を示しています。

サーベイナーからは全会一致で再認定にふさわしい施設と判断いただきましたが、今後更に発展していくための4つの改善ポイントとして

- ①感染管理スタッフの増員 ②移植医療のプロセスの改善
 - ③看護師を含む医療従事者の発行元確認の徹底
 - ④重大な事象を防ぐ早期警告システムの強化
- が指摘されました。

■初回審査と更新審査の指摘事項比較

	初回審査 (2018年8月3日)	更新審査 (2021年12月17日)
審査基準 ver.	ver.6	ver.7
評価項目数 (ME数)	1,270	1,271
一部達成 (Partially Met)	18	25
未達成 (Not Met)	2	7
合計	20	32

初回審査との比較では、一部達成・未達成の数は増加しましたが、更新審査は初回よりも審査基準が厳しく設けられているためであり、「3年で大きな成長が認められる」との評価をいただいています。一部達成・未達成の32項目については、改善や運用の見直しを進めています。



藤田医科大学病院
病院長 白木 良一

職員の皆さんの頑張りに感謝

認証の更新をいただけたのは、教職員の皆さんTeam FUJITAで頑張っていただいたおかげです。心から感謝しています。今回の受審ではたくさんのこと学び、非常に有意義な経験となりました。これを機に次のステップになるような新しい試みにも取り組んでいきたいと考えています。次の更新に向けた新しい旅はもう始まっています。これからも藤田ならではの世界に誇れる医療の質と安全性を考えた医療を実践していきましょう。

2022年1月

星長理事長ら学園首脳陣が岸田総理と官邸で会談



岸田総理に本学園の取り組みを語る星長理事長

星長清隆理事長、湯澤由紀夫学長、白木良一病院長ら藤田学園の首脳陣が1月7日、首相官邸を訪問し、岸田文雄総理大臣と面会しました。応接室で行われた会談では、星長理事長がワクチン大規模接種会場の設置や6万件を超えるPCR検査の実施など新型コロナ収束に向けた学園の2年間の取り組みを説明。さらに南海トラフ地震への備えや「HANEDA INNOVATION CITY」における先端医療拠点の開設、手術支援ロボット「hinotori」を用いた遠隔手術の実証実験など、学園が進めるさまざまなプロジェクトを紹介しました。

岸田総理は、本学の社会貢献に対して感謝の意を伝えるとともに、「hinotori」遠隔手術実証実験での時差0.026秒ということにも感銘を受けられたご様子でした。会談には、昨年9月に本学を視察された萩生田光一経済産業大臣、米田建三客員教授（国際経済交流協会会長）も同席。萩生田大臣が視察時に「hinotori」の操作を体験したことを挙げ、「総理、ぜひ1度、藤田医科大学へ行きましょう」と声をかけるなど、和やかな会談となりました。星長理事長は今回の総理との面会について「大変貴重な機会をいただきました。今後、教職員・学生とともに医療現場から“日本を元気に”させる、さまざまなプロジェクトに取り組んでいきたい」と話しています。

画像診断コンテスト 「画論29th The Best Image」で最優秀賞を受賞

キヤノンメディカルシステムズ株式会社が毎年開催している「画論29th The Best Image」の最終審査・発表式が2021年12月19日にオンラインで行われ、藤田医科大学病院放射線部の片方明男主任とリウマチ・膠原病内科学の橋本貴子講師が共同で応募した画像診断「Monckeberg様硬化症を伴うClassical Giant cell arteritis」が Aquilion



左から、医療科学部放射線学科 江岡勝美客員教授、放射線部 片岡由美課長、井田義宏副部長、リウマチ・膠原病内科学 安岡秀剛教授、放射線部 片方明男主任、リウマチ・膠原病内科学 橋本貴子講師。CT「Aquilion Precision」の前で

Precision部門の最優秀賞を受賞しました。

総応募数は417件で、うちCT部門の応募は137件。本学の画像は、「巨細胞性動脈炎の血管壁の全周性細胞浸潤による炎症所見を、淡い染まりや血管に沿った石灰化まで明瞭に描出し、診断や生検範囲の同定に有用な情報を提供している。また径の小さな浅側頭動脈の血管内径と血管壁の情報を高分解能画像で捉えており、大変優れている」と高く評価されました。橋本講師は今回が初受賞、片方主任は2019年と2021年の最優秀賞のほか、2020年には優秀賞に選ばれており3年連続の受賞となります。



今回の賞を受賞して

**リウマチ・膠原病内科学
橋本 貴子 講師**

今回の受賞は、日頃より膠原病の診断に有益な画像を提供してくださる片方先生をはじめ放射線技師の先生お一人おひとりのご尽力の賜物であります。この場をお借りして深謝申し上げます。



放射線部 片方 明男 主任

今回の受賞も診療科の先生方や放射線部スタッフの協力によるものであり、今後も最先端画像を提供しつつ藤田医科大学病院の発展に貢献したいと思います。

2022年2月

スマートホスピタル実現に向けた サービスロボット実証実験(フェーズ2)を実施

本学と川崎重工業株式会社との産学連携によるサービスロボットの実証実験が2月4~15日の12日間、藤田医科大学病院で行われました。

第2段階となる今回は、アーム付きのロボットで臨床検査部からA棟9~11階の複数のスタッフステーションへの検体回収・人の介入なしでエレベータの乗降による別フロアへの移動と、患者さんの見守りを検証しました。また、iPNT-K™*を活用したロボットの位置情報の把握なども行いました。

2023年度実用化をめざし、来期下期(フェーズ3以降)は実用化に向けたPoC試験をする計画を進めています。

*川崎重工が提供する屋内位置情報サービスの名称。GPSの電波が届かない屋内での位置測位を特別な装置を設置することなく、対象空間の電波を利用する技術によって実現。どのフロアのどの場所にあるか位置情報で知ることができます。

フェーズ1
自律走行機能を有したロボットによる同一フロア内搬送の検証+人の補助あり別フロア移動の検証
時期:2021年10月23日(土)～10月31日(日)(実施完了)

フェーズ2
自律走行機能・エレベータ連携機能を有したアーム付きロボットによる別フロア間搬送の検証・ロボットの位置情報の把握
時期:2022年2月4日(金)～2月15日(火)(実施完了)

フェーズ3
サービスロボットによる病院内作業と病院側システムとの連携検証
時期:2022年5月以降(予定)
2023年に導入をめざす



アームを使い、人の介助なしでエレベータに乗降可能



カメラが付いたアームをカーテンの上に伸ばし、患者さんの状態を確認



実証実験の動画を
左記QRコードよりご覧いただけます!
[Check here](#)

2022年3月

医療科学部医療経営情報学科 閉学科

医療科学部医療経営情報学科が2022年3月末で閉学科となり、3月13日に閉学科式が行われました。式には、星長清隆理事長、湯澤由紀夫学長、齋藤邦明医療科学部長、金田嘉清保健衛生学部長、寺西利生医療経営情報学科長らが出席しました。

医療経営情報学科は、前身の短期大学医療情報技術科の771名、今年の11回生までの413名、計1,184名の卒業生を全国の医療機関に輩出しました。



2022年3月

藤田医科大学看護専門学校 閉校

藤田医科大学 看護専門学校は3月31日、58年の歴史に幕を下ろしました。1964年に前身となる南愛知准看護学校が設置され、医療技術の発展とともに統合・再編を経て、2000年に現在の全日制3年課程として開校。時代のニーズに応える看護実践に向けて延べ3,784名の卒業生を世に送り出してきましたが、看護師基礎教育の4年制化が推進されている社会背景を受け、役割を終えるに至りました。



閉校記念式典

3月6日、閉校記念式典がフジタホール2000で執り行われ、在校生や歴代校長など216名が出席しました。式典では星長清隆理事長が、「看護専門学校は藤田学園の歴史の根幹をなす学校であり、卒業生には日本だけでなく世界でも活躍されることを祈念している」と式辞を述べ、続いて湯澤由紀夫学長が「長きにわたって優秀な看護師を育てていただいた先生方の努力にお礼を申し上げたい」と歴代の教職員へ感謝を伝えました。眞野恵好統括看護部長は、ホスピタリティの精神に富んだ卒業生の活躍が、藤田医科大学病院の発展につながったと回顧し、「藤田スピリッツを広く伝承していってほしい」と期待を寄せました。その後、9名の学生で始まった学校の歩みを振り返るスライドを上映。最後は、歴代校長お一人おひとりに花束を渡し、閉校を惜しみました。



卒業証書授与式・閉校式

3月13日には、卒業証書授与式と閉校式が行われ、初めに卒業生37名一人ひとりに小野校長から卒業証書が手渡されました。続く閉校式では、学校に置かれていたナイチンゲール像の藤田医科大学病院看護部への継承が行われました。開校当初より、看護専門学校の戴帽式では各学生がナイチンゲール像から灯火を受け取り、良き看護の実践を誓ってきました。

ナイチンゲール像は、藤田医科大学病院B棟1階のホスピタルパーセージュに移設され、3月25日に眞野統括看護部長、小野校長、前田初美副校長らが設置を祝しました。今後は、大学病院から本校の卒業生を見守ります。



■ 卒業生数

入学年	教育課程	卒業生数
1964～1997年	准看護科	1,235名
1968～2000年	看護科2年課程	1,613名
2000～2019年	看護科3年課程	936名
総 計		3,784名



学校の変遷と思い出～起源から現在までの軌跡～
を左記QRコードよりご覧いただけます。

Check here



閉校にあたり

本校は閉校となります。各患者さんを尊重する優しさの看護の精神を培った卒業生の歩みはこれからも永く続きます。卒業生の皆様の更なるご発展を祈念いたしますとともに、これまで本校を築いて来られた歴代校長、教職員諸氏及び本校に多大なご支援を賜りました藤田学園内外の病院・諸施設の皆様に深謝申し上げます。

校長 小野雄一郎



▲ 准看護科1回生9名



▲ 看護科3年課程9回生入学式

三重大学・浜松医科大学と 医療連携協定を締結

2022年4月

本学・三重大学・浜松医科大学の3大学は、南海トラフ地震等の大規模自然災害に備え、3月31日に医療連携協定を締結しました。本協定は、地震や津波などで自らの大学病院が機能を果たせない場合に、今回の3つの大学病院が、患者の受け入れや医療機器の提供、医療者の派遣等を相互に行うことで、高度医療を維持することを目的にしたものです。

湯澤由紀夫学長は「災害が起きてからではなく、普段から連携を考えていく。広域災害に強い東海地区をつくりたい」と意気込みを話しました。今後はヘリなどを使用した患者搬送方法など実務的な話し合いを進めていきます。



三重大学 藤田医科大学 浜松
莫災害時における協力・支援に関する

左から三重大学 伊藤正明学長、湯澤学長、浜松医科大学 今野弘之学長

2022年度 入学式

4月10日、2022年度の入学式が2000人ホールで執り行われました。今年度は保護者も列席され、新入生745名が本学での新たな一歩を踏み出しました。

式典では、各学部長と新入生が対面し、代表学生が壇上で宣誓と署名を行いました。湯澤由紀夫学長は「本学はこれまで未知の領域にも勇気を持ってチャレンジしてきた。皆さんもプロジェクトの一員として大いに学び、成長していただきたい」と式辞を述べ、続いて星長清隆理事長が2030年に向けたFujita VISIONを紹介し、「今後、自分自身が社会のために何ができるか考えてほしい。そして藤田の夢を皆さんとともに実現していきたい」とエールを贈りました。



入学生にあいさつをする湯澤学長



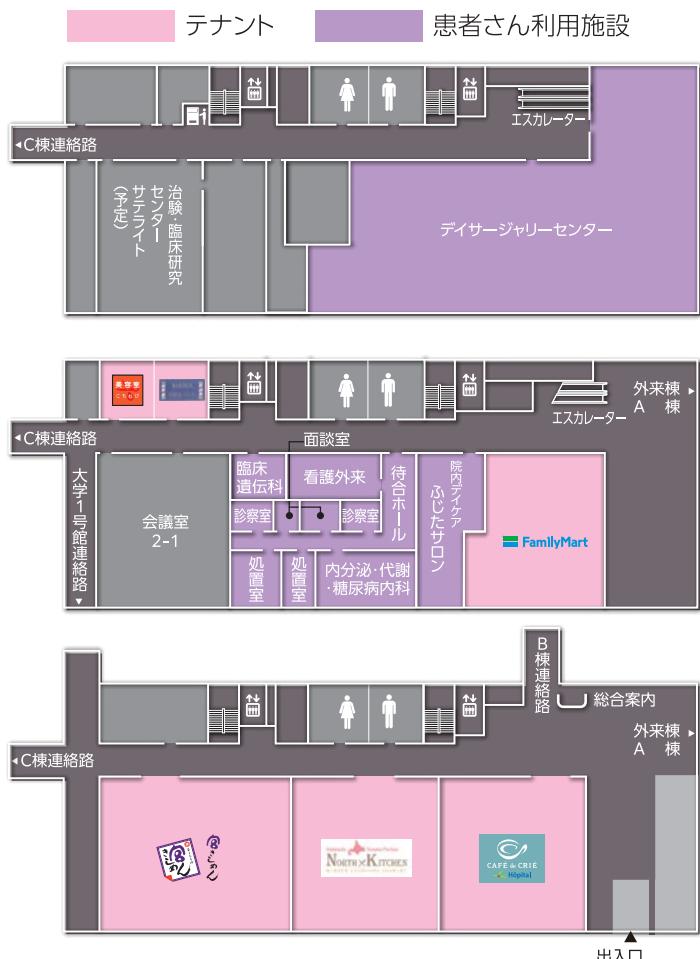
管弦楽部による演奏で入学生をお迎え

2022年度 新入生数	
医 学 部	120名
医 療 科 学 部	239名
医 療 檢 查 学 科	147名
放 射 線 学 科	92名
保 健 衛 生 学 部	275名
看 护 学 科	137名
リハビリテーション学科	138名 (理学療法専攻:83名 作業療法専攻:55名)
計	745名

2022年5月

豊明校地 フジタモール 5月9日 グランドオープン!!

大学病院旧1・2号棟跡地に建設中のフジタモールのグランドオープンが5月9日に決定しました!現在、オープンに向けて内装工事が着々と進められています。今号では、フジタモールの見取り図と建物の内部を一部公開!



3F



手術室2室、回復室3室を備えた「デイサージャリーセンター」を設置。これまで行ってきた高度な手術のうち、身体への負担が少ない手術を実施する計画です。

2F



内内分泌・代謝・糖尿病内科、臨床遺伝科、看護外来が設置され、4月4日から稼働しています。このほか、院内デイケア「ふじたサロン」やヘアサロン、ファミリーマートなどのアメニティ施設が入ります。

1F



病院ロータリーから多目的広場・フジタモールの玄関がつながります。

CAFÉ de CRIÉ、ホッカイドウ スイーツパーラー ノースキッチン、宮きしめんの3店舗が入店予定です。

B1F



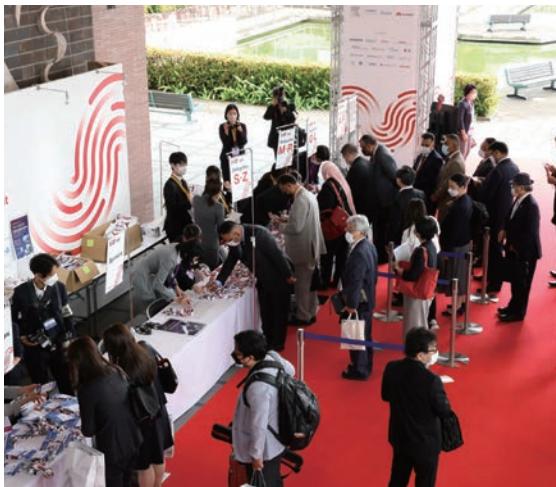
パウダールーム・シャワーが完備された男子・女子更衣室や、ばんたぬ病院の病院食を豊明校地で調理し運搬する施設セントラルキッチンが整備されます。



開院前のフジタモール内部を動画でもご覧いただけます!

Check here

THE Asia Universities Summit 2022 開催報告



5月31日～6月2日の3日間にわたって開催した「THE Asia Universities Summit 2022」は、教職員、学生の協力のもと、大盛況のうちに閉幕することができました。

期間中は、アジアの主要大学の学長、ユネスコの事務次長、ノーベル賞受賞者、日本を代表する企業のトップリーダーら世界22カ国から330名が本学キャンパスに結集。「Facing the future, creating academic talent(未来に向けて、学術的才能を生み出すために)」をメインテーマに、大学の存在意義やグローバルな視点を持つ人材の育成などについて議論しました。また、今回のサミットには、寛仁親王妃信子殿下に御臨席を賜りました。皇族方にご来学いただくのは、開学以来初の栄誉となります。

月報ふじたでは、本サミットの報告を2回に分けて掲載。今号では、開会式の様子と、2日目に発表された「THEアジア大学ランキング」の結果をお届けします。

歴史的イベントが開幕



フジタホール2000で行われたオープニングセレモニーは、寛仁親王妃信子殿下御臨席のもと、大治太鼓尾張一座の勇壮な祝い太鼓で幕を開けました。挨拶に立った湯澤由紀夫学長は、オンラインでの開催が実現したことへの感謝を伝えるとともに、「今回のサミットを契機に大学が相互理解と協調を進め、新たな取り組みが始まる 것을期待している」と力を込めました。続いて、

大村秀章愛知県知事が登壇。「実り多きサミットになるよう祈念している」と祝辞を述べました。寛仁親王妃信子殿下からは「参加者の皆様が手を携え、アジアの、そして世界の未来をともに切り開かれることを願います」とのお言葉をいただきました。



「THE Awards Asia」 特別表彰を受賞

1日目は、大学の革新的な取り組みを評価する「THE Awards Asia」が発表され、本学は選出は逃しましたが、ホスト校として特別表彰を受けました。2日目には、2022年度の「THE アジア大学ランキング」が発表され、本学は201-300位にランクインされました。



THE Asia Universities Summit 2022
のダイジェストを公開しています。

Check here

サミット開催記念 市民公開講座を オンラインと合わせ350名余が受講



「THE Asia Universities Summit 2022」の開催を記念した市民公開講座「災害と医療」が5月29日、来場型とオンライン型のハイブリッド形式で行われました。講座では、建築耐震工学、地震工学を専門とする名古屋大学の福和伸夫名誉教授(写真)と、本学救急医学・総合内科学の岩田充永教授が登壇。大災害発生時にも高度医療が継続できる医療体制構築の必要性や、災害への備えについて解説しました。



基調講演・セッション

東京工業大学科学技術創成研究院の大隅良典教授、名古屋大学の天野浩教授、島津製作所の田中耕一氏のノーベル賞受賞者3名と、トヨタ自動車の内山田竹志代表取締役会長や川崎重工業の橋本康彦代表取締役社長執行役員最高経営責任者ら世界的企業のトップが揃い踏みする基調講演は大きな注目を集めました。パネルディスカッションでは、大学が抱える課題やグローバル社会が直面する問題についての議論が活発に展開されました。



トヨタ自動車の
内山田竹志代表取締役会長は、
最終日の基調講演に登壇



天野浩教授には、イノベーションに向けた
産学連携について講話いただきました



大学の役割は、ナレッジリーダーの育成と国際的な知識交流の場の
創生と説いた大隅良典教授



ユネスコのXing Qu事務次長は、
このサミットがSDGsのプラットフォーム
となることを願うと述べました



メイン会場のフジタホール2000では
約20の講演やセッションが
行われました

ドリンクレセプション・ガラディナー

夜は会場を変え、名古屋マリオットアソシアホテルでパーティーを開催。サミット初日はTHE Awards Asiaの発表。2日目はTHEアジア大学ランキングと、来年の THE Asia Universities Summit 2023のホスト校をThe Chinese University of Hong Kongが務めることが発表されました。



ガラディナーでは盛大な鐘開きで
サミットの成功を祈願



マレー・シア国立サラワク大学の皆さん、
伝統衣装で参加



芸妓さんたちは海外からのゲストに
大人気。記念撮影にひっぱりだこでした



ホスト校として
「THE Award Asia」の特別表彰を
受けました

食養部がレシピを考え 環境に優しいLunch

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

本学と日本ゼネラルフードとMizkanが共同でSDGsに配慮したお弁当を作成し、サミット参加者に提供しました。メニュー構成は本学食養部を中心となって考案。地産地消にこだわり、旬の野菜や果物をふんだんに使用した見た目にも鮮やかな「SDGs&Healthy SET」と「VEGAN SET」を4種類(各1種類×2日間)用意し、各の方々に喜んでいただきました。



SDGs&Healthy SET

大豆ミートを使用したパティとパプリカソースでヘルシーに仕上げた「大豆ミート&ZENBパブリカバーガー」。ノンフライのエビロールサンドを付け合わせたボリューム満点のセット



VEGAN SET

100%豆からできたZENBヌードルを使用した「ハ丁味噌ジャージャー」。食材には動物性食品を使用せず、三河産のハ丁味噌に大豆ミートを加えた甘辛ソースで仕上げました

2022年 6月

THE ASIA
UNIVERSITIES
SUMMIT

FUJITA
HEALTH UNIVERSITY

学生ボランティアが大活躍



「キャンパスツアーにご参加の方はお集まりください!」



受付は、教職員と学生の混合チームで臨みました

3日間で約220名の学生ボランティアが、通訳や案内、運営など、さまざまな場面で活躍しました。



運営に携わる教職員の担当管理も学生たちが担いました



語学力を生かして会場案内にも大活躍



若い力でサミットを盛り上げてくれた学生たちに感謝

ALL Fujitaのチカラ

2年越しとなったTHE Asia Universities Summit 2022は、教職員・学生が一丸となって取り組み、大成功を収めることができました!



フィナーレを終えてスタッフ全員で記念撮影



佐々木ひと美教授はリンクレセプションの司会を務めました



運営の流れをマニュアルで再確認



各所に英語が堪能なスタッフを配置しました



質問にも一つひとつ丁寧に対応するスタッフたち

THE Asia Universities Summit 2022を終えて

本学教職員や学生スタッフの心温まるおもてなしの精神に対して、参加者より感謝の気持ちとお褒めの言葉を多くいただきました。学長として非常に誇らしく、嬉しい限りです。事前準備から当日運営、そして参加者への温かい心遣いなど、支えてくれた教職員や学生スタッフのご尽力があったからこそこの成功で、心より感謝しています。サミットを通じ、藤田医科大学は大きな発展を遂げました。今後もさらなる飛躍をめざし、ALL Fujitaで頑張っていきましょう。

学長 湯澤 由紀夫



THE Asia Universities Summit 2022
のダイジェストを公開しています。
[Check here](#)

P.13の理事長通信にも
THE Asia Universities Summit 2022
について掲載しています。

FUJITA 2022.07 04

2022年 6月

THE Asia Universities Summit 2022開催記念

フジタEXPO 2022

THE Asia Universities Summit 2022開催記念として、5月31日～6月4日の5日間にわたり実施した「フジタEXPO 2022」は、延べ約900人の来場者を迎え、大盛況のうちに閉幕しました。期間中は、第54回藤田医科大学医学会学術大会、第8回学内研究シーズ・ニーズ発表交流会、2022年度医科学研究センター研究成果発表会、学園祭を合同で開催。サミットに続いて、未来への希望に満ちた知の祭典となりました。

| 第8回学内研究シーズ・ニーズ発表交流会

学内のシーズとニーズのマッチングを目的として開催。大学2号館6階に橋渡し系(複合領域)・基礎系・臨床系の各研究シーズ・ニーズポスターが約100点掲示されました。また、フジタホール500では、10名による口頭発表が行われました。



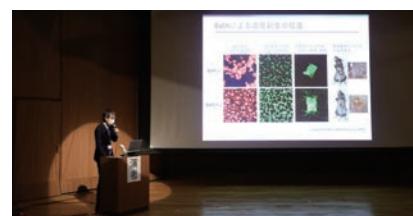
発表会場では、演題についてのディスカッションが活発に展開されていました



シーズのポスターに見る医師ら



大学の教職員だけでなく医療スタッフや学生など多くの人が訪れました



フジタホール500で行われた口頭発表

| 第54回医学会学術大会



国立国際医療研究センター・国際ウイルス感染症研究センター長を務める東京大学医学研究所の河岡義裕特任教授による特別講演「新興感染症の征圧を目指して」のほか、「スマートホスピタル」をテーマにしたシンポジウム、学生・教員による口頭発表やポスター発表を実施。優れた発表には奨励賞や優秀演題賞が贈られました。

| 2022年度 医科学研究センター研究成果発表会・特別講演



医科学研究センター(旧・総合医科学研究所)は新しい部局名の下で研究成果発表会を開催。フジタホール500を会場に15演題が発表され、活発な質疑応答が行われました。特別講演には筑波大学国際統合睡眠医学研究機構長で文化功労者の柳沢正史教授が登壇(写真)。睡眠研究の最先端を紹介いただきました。

3年振りの学園祭

新型コロナウイルスの影響で2020年度から中止になっていた学園祭を、フジタEXPOの一環として3年振りに実施! 大学2号館1階では、新型コロナウイルスの検査法や細胞小器官の働きなど医療系大学ならではの学術展示を行ったほか、ステージでは教職員有志による楽器やゴスペルの演奏もあり、大いに盛り上がりました。bingo大会は2日間で計4回行われ、受診に来られた患者さんも豪華賞品をGetし、うれしそうにガッツポーズをしていました。今年は秋にも学園祭が予定されています。



教職員と市民らによる「いこいの広場コンサート」が限定復活



医療科学部 市野直浩教授が超音波検査について解説する講座も

コ・メディカル形態機能学会奨励賞を受賞して

2022年9月



藤田医科大学大学院 保健学研究科
臨床検査学領域 形態・細胞機能解析学分野
修士2年 岡崎 将門

このたび、コ・メディカル形態機能学会にて奨励賞をいただきました。コ・メディカル形態機能学会奨励賞は形態学に限らず機能も視野に入れた新しい形態機能学研究に対して、将来性のある優秀な研究発表をした35歳以下の若手研究者に贈呈される賞です。私は本学会での受賞を目標としており、2年越しに受賞できたこと、誠に光栄に思います。

発表した研究は、1枚のパラフィン切片の同一部位を共焦点レーザー顕微鏡と走査型電子顕微鏡の両方で観察する光-電子相関顕微鏡法を用いて、海馬神経細胞の樹状突起における三次元的な微細構造を観察する方法を確立するというものです。

現在私は大学院生として安倍雅人先生の指導の下で

研究活動に勤しむ傍ら、研究推進本部オープンファシリティセンター生体画像解析室で研究補助員を務めています。生体画像解析室では、病理組織標本作製や電子顕微鏡標本作製などの学内受託研究を行っております。室長の尾之内高慶先生やスタッフの方たちには、顕微鏡標本作製を行えるようにご指導いただいた他、研究面でもお力添えいただきました。

最後に、今日に至るまで多くの先生方や諸先輩方に支えられて、いまの私があると思っています。感謝の言葉しかありません。これからも精進して参りますので、より一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2022年3月 国家試験結果

学部・学校	学科	資格名	区分	受験者	合格者	合格率%	全国平均
医学部	医学科	医師（第116回）	新卒	113名	109名	96.5%	95.0%
			既卒	4名	3名	75.0%	54.0%
			計	117名	112名	95.7%	91.7%
医療科学部	臨床検査学科	臨床検査技師	(第68回)	144名	136名	94.4%	75.4%
	放射線学科	診療放射線技師	(第74回)	57名	54名	94.7%	86.1%
	臨床工学科	臨床工学技士	(第35回)	48名	47名	97.9%	80.5%
保健衛生学部	看護学科	看護師	(第111回)	125名	125名	100%	91.3%
		保健師	(第108回)	17名	17名	100%	89.3%
	リハビリテーション学科理学療法専攻	理学療法士	(第57回)	57名	57名	100%	79.6%
	リハビリテーション学科作業療法専攻	作業療法士	(第57回)	37名	37名	100%	80.5%
看護専門学校	看護科	看護師	(第111回)	37名	37名	100.0%	91.3%

(注) 医療科学部・保健衛生学部と看護専門学校の受験者数は、既卒者を含みません。

恩師からのお便り (順不同)

半世紀の歩みと卒業生の皆さんへ



藤田医科大学
名誉教授・特定教授
濱子 二治

皆さんこんにちは。私は、1979年名古屋保健衛生大学衛生学部衛生技術学科を卒業後、臨床検査技師として大学病院救命救急センター就職、1985年1月からは藤田学園衛生技術短期大学衛生技術科助手（生理学を担当）として教育、研究を開始し、1988年藤田保健衛生大学総合医科学研究所医高分子学研究部門の故千谷晃一教授の下で医学博士号を取得し、止血血栓形成制御に関する基礎研究を長年行ってきました。2008年から藤田保健衛生大医療科学部医療経営情報学科教授、2012年から医療科学部医療経営情報学科学科長を拝命し、学科の運営はもとより多くの診療情報管理士を輩出いたしました。また、藤田保健衛生大学では医療科学部副学部長、学長補佐 教育担当、IR推進センター長、医療科学部臨床工学科学科長、藤田医科大学では大学事務局長、特命教授、事務局参与の役職を賜りました。同窓会活動では医療科学部同窓会長、一般社団法人藤衛会発足時には会長、藤田学園同窓会副会長を担って、現在は藤衛会顧問、藤田学園同窓会顧問を拝命しております。2022年4月から藤田医科大学名誉教授（第113号）、藤田医科大学特定教授（非常勤）として保健衛生学部看護学科人体機能学の授業を受け持っております。そのほか、大学の広報活動、就職対策、同窓会活動等を担っております。

教育では、1985年から保健衛生大学衛生学部衛生技術学科、短期大学、藤田学園医学技術専門学校の生理学・同実習、臨床生理学・同実習・臨床検査技師国家試験対策特論、医療治療機器学実習を担当し、短期大学医療情技術科及び医療科学部の医療経営情報学科では生理学、

救命生理学、検査情報学、医療安全管理論、診療情報管理総合演習（診療情報管理士認定試験対策）看護学科の人体機能学を担当いたしました。また、大学の看護専門学校医療専門課程では解剖生理学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、看護のための検査学、特別講義（看護師国家試験対策解剖生理学）も担当させていただきました。振り返ると約40年もの長きに渡り教鞭を執らせていただきました。この医学基礎教育が卒業生の活躍の一端を担っていればありがたいかと思います。

今日までの研究成果や教育者として成長できましたことは周囲の先生方のバックアップに加えて、卒論生をはじめとするたくさんの学生さん達のおかげでもあります。

この半世紀の間、度重なる自然災害や、重篤な感染症も多発しており、多くの被災者および感染者の医療従事に携わっている世の中あります。現在でも新型コロナウイルス・COVID-19オミクロン株からの変異型が国内外で猛威を振るっています。このような時代、医療従事者に求められるものは状況に応じた対応能力向上かもしれません。特に感染症においては、感染防御の意識と実践能力が求められています卒業式などでもお話ししてきましたが、職場に愛着を持ち、自分の仕事に自信と誇りを持って、自分がお世話になっている施設のためにご尽力いただきますよう願っています。そして、自分を偉いものと驕ることなく、素直に他に学ぶ「謙虚」な気持ちを忘れず、失敗しても諦めることなく、能動的に手を伸ばすことで、しっかりと「運」をつかんでください。皆さんの益々のご活躍を心から祈っています。



医療法人社団健育会
湘南慶育病院
副院長
前田 耕太郎

藤田医科大学時代を振り返って

2022年3月で、27年間お世話になった藤田医科大学を退職しました。在籍時には、当時の下部消化管外科で素晴らしい藤田の卒業生の仲間に恵まれて輝かしい時を過ごさせて頂き感謝申し上げます。私のいた時代には、皆様のお陰で藤田の大腸・肛門外科は本邦に誇る外科であったと自負しています。現在総合消化器外科に統合され、須田教授のもと益々発展されることを期待しています。藤田時代には、仕事だけではなく私の趣味であるワインの仲間（Fujita

wine academyと呼称）とも、岐阜にあるラモニドラルミエールで楽しい時間を過ごすことができました。藤田の卒業生は、一人一人とても優しくて、素晴らしい人間性に恵まれた先生が多いと感じていましたが、一方少し控えめでなかなか外に出ない部分があったかと思います。対外的な活動をより多くすることで、自分の立ち位置を認識してさらに活躍できる良いと思います。皆様の益々の活躍を祈念します。

研究と教育を楽しんだ日々



藤田医科大学
名誉教授・客員教授
松井 太衛

皆さんお元気ですか。生物学を担当していた松井です。私は1987年6月に総医研医高分子学部門の助手として採用され、故千谷晃一教授のもとでライフワークとなるフォンウィルブランド因子を中心とした血栓制御の研究を始めました。2003年から2022年まで医療科学部の教授として、医学科、臨床検査学科、放射線学科、看護学科、リハ学科、臨床工学科、医療経営情報学科、医療検査学科、大学院保健学研究科などで生物学の講義、実習などを担当しました。振り返ると、先生方や

事務方、大学院生、短大や医療科学部（衛生学部）、医学部の学生さん達のおかげで楽しい研究生活と教育生活を送ることができました。特に医高分子学部門と生物学教室と一緒に過ごした卒論生と大学院生の皆さん、担任をしたクラスの皆さん、生理学の濱子二治先生と生物学の松下文雄先生とは、研究をはじめ、飲み会、学園祭、クラス会、誕生会、忘年会、学会参加など、楽しい思い出がいっぱいです。卒業生の皆さんと、いつかどこかでまたお会いできる日を楽しみにしています。

学生が誇れる藤田学園に



藤田医科大学 医学部
生命科学 客員教授
角川 裕造

私が藤田保健衛生大学の総医研に職を得て、前職から転任してきた25年前のある春の朝、山門に続く通学路を大学に向かっていると、黒い制服に身を包んだ学生の一団に出くわした。足取り重くうつむきかげんに歩いていく彼らの姿は、まるでこれから告別式に参列する者を思わせた。実はその日が大学の入学式であったことを後から知られた。それから25年、大学病院は日本有数の規模と実績を誇る病院へと発展し、学舎が一新されるとともに国家試験の合格率も飛躍的に上昇した。私は15年前に総医研から医学部に籍を移し、

1年生の教育を担当するようになったが、新入生の表情は年を追うごとに明るく自信に満ちたものに変わってきた。「藤田に入学できてよかったです。」と嬉しそうに話す学生が増えてきた。この25年間の藤田の発展は教職員の努力の賜物であろうが、今後の成長は学生や卒業生達の双肩にかかる。藤田がこれまでに積み上げてきた診療や研究の成果がうまく学生の教育に振り向かれて、診療、研究、教育の3つが好循環することにより、藤田医科大学が今後ますます発展していくことを祈念している。

オール藤田のピースとして



トヨタ記念病院
眼科 科部長
平野 耕治

私は平成16年10月1日付けで藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院（現 藤田医科大学ばんね病院）眼科教授を拝命し、令和4年3月31日をもって定年退職いたしました。専門分野である前眼部疾患の診療については、東海地方にはほとんど専門家がないため、愛知県や隣県だけでなく、全国各地から患者さんのご紹介をいただけました。これも藤田という看板があってのことだと思います。本学で総合アレルギーセンターを設立した際には眼科もチームに加えていただいて、多くの診療科、

多くの部門の皆さんと連携して、専門の診療、研究、教育に携わってこられました。横のつながりの温かさを感じながら、微力ながら自身もその専門性で藤田学園に貢献できたのではないかと思っております。勤務していた17年半というのはあっという間でした。ご厚誼を賜りました藤田学園、そしてばんね病院の皆さん様に御礼申し上げますとともに、学園の益々のご発展をお祈りいたします。

39年間を振り返って思うこと



藤田医科大学
保健衛生学部看護学科
名誉教授
久納 智子

本年3月末をもって、看護教員としての生活に終止符を打ちました。39の間、その時々でご指導いただきました多くの先生方や職員の皆様の支えにより、最後まで続けられたと思っております。また、私の講義に真剣に耳を傾けてくれた学生達、激論した卒論生、訪室してくれた学生との時間が、教員としてまた、人として成長させていただいたのだと感じております。本学に入学した昭和50年頃の看護大学は8校で、看護師の職業評価や地位は高くありませんでした。昭和58年、本学に戻り看護教育をスタートし、多くの卒業生

が地元に戻り活躍していました。年々大学は増加し、2022年には295校になっています。「新設のために紹介いただける藤田の卒業生はいませんか？」と問い合わせを受けることが多くありました。本学の教育を受けた多くの卒業生がその学びを継承し、教育の場や臨床の場で優秀な看護師を育て、看護師の社会的な地位の向上に貢献していると確信しています。

これからも卒業生頑張れ。

同窓会からのお知らせと総会報告

専門学院部会

専門学院同窓会は藤田学園同窓会と共に歩んでいます。
理事・代議員・評議員の役員選出による運営と同窓会員への行事連絡を致しております。近々同期会を開催するまたは学友会を開く予定の方は是非ご連絡下さい。
会員相互の互助を目標に皆様からのご意見、ご要望をお伺いし企画運営に反映致します。

藤衛会

一般社団法人 藤衛会は2022年4月現在、医療科学部・保健衛生学部卒業生ならびに大学院保健学研究科修了者を合わせ13,581名から構成され、卒業式の卒業記念品（印鑑）、各学科卒業生の周年記念同窓会支援、支部設立の支援、本学関連の学会支援要請に対する補助金援助、同窓生による学術講演会の支援、在学生及び留学生の国際交流支援、学生専用バス運行支援等を行っております。

今後も同窓生と母校との架け橋となるよう尽力いたします。同窓生の皆様方のご協力、ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。藤衛会の詳細な活動につきましてはホームページでご確認ください。<http://www.fujita-hu.ac.jp/~dousou68/index.html>

藤衛会会長 西井一宏

藤医会

令和3年4月から藤医会第6代会長の4期目を拝命して、藤田医科大学岡崎医療センターの病院特命教授を続けながら、同窓会活動に関わっております。藤田学園に入學して以来この学園のありのままを50年間にわたり直視してきましたので、様々な経緯は熟知しております。この経験を生かして、医学部の50周年を藤田啓介先生が建学されたときに、理想とされていた医学部に成熟させるべく全力で活動をさせていただいております。副会長を根木浩路先生(6回生) 大槻眞嗣先生(11回生)、篠崎仁史先生(15回生)に留任していただきバランスの良い藤医会活動ができております。私も同窓会活動の円滑な実施に大局的に取り組めるようになりました。藤田学園同窓会の皆様におかれましては、藤医会の活動にご理解を賜れますようくろぐれも宜しくお願い申し上げます。藤医会の活動としましては、年2回の会報の発行、2年に1回の会員名簿の発行、年1回の総会、卒業生の教授就任記念講演会・祝賀会の開催、および各支部の支部会訪問を行っております。残念ながらこの3年は新型コロナウイルス感染の流行に鑑み、すべてが中止になっております。詳細はホームページをご覧いただけましたら幸甚に存じ上げます。

藤医会会長 黒田 誠

カズモス部会

カズモス同窓生の皆様には、学園同窓会活動にご理解ご支援を賜りありがとうございます。

カズモス同窓会は、2019年末より発生した新型コロナパンデミクスにより、活動自粛しております。現在は「第8波」の最中で残念ながら引き続き同窓会活動を、延期することになりましたのでご報告します。

そこで今後の同窓会活動に関して、同窓生の皆様にお声を頂戴したいと思います。同窓会に対してのご意見・ご要望、次回の同窓会総会・親睦会について、そして同窓会からの報告や同窓生の親睦や情報交換の要望など、また近況報告だけでも構いません。下記メール宛にご連絡をお願いします。今後の同窓活動の参考にします。

最後に、世界安寧を望み、同窓生皆さんのご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

カズモス同窓会会長 兼田道男

E-mail : nursing-net@onyx.ocn.ne.jp

短期大学部会

藤田医科大学短期大学同窓会では、全国的に新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大による第7波の現状等を踏まえ、昨年に

引き続き総会及び懇親会開催を中止いたしました。つきましては、2021年度活動・会計・監査報告と、2022年度の予算案・役員案及びその他の事項については、役員への持ち回り審議として実施させていただき、10月下旬にご承認をして頂きましたので、報告させていただきます。

2019年11月末に発生した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、3年目になり日本での累積死者数が45,890人(2022.10.17現在)で、特に70歳以上の高齢者に多く見られます。日本経済は、円安と重なり大きな転換期を迎え、私たちの日常生活と経済活動との狭間にあり、トンネルの見えない日々が続いている感じます。既に第五回目のワクチン接種も実施されていることを考えると、私たちの同窓会もアフターコロナに向いながらも、自粛していた各同窓会の開催を願っております。卒業生の皆様には、コロナに対する感染リスクを最小限に対応した上で、卒業生同志が親しく、楽しく共に語り合える場となる貴重な同窓会を、開催されますことをお願い申し上げます。尚、合わせて開催された折には、是非とも短期大学同窓会ホームページにご投稿をお願い申し上げます。

思考の日々が続くコロナ生活の中、感染回避と健康管理をしながら、我慢と忍耐の日々です。卒業生の皆様には、今年の冬には第8波のコロナ感染拡大とインフルエンザのダブル流行が懸念されていますので、ご健康で過ごされることをお祈り申し上げます。

最後に、短期大学同窓会の皆様には、ご健勝であられますと共に、今後とも短期大学同窓会にご支援、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

短期大学同窓会会長 川井 薫

看護専門学校部会

看護専門学校は2022年3月をもって閉校いたしました。准看護師、看護師を合わせて総勢6,993名の卒業生を輩出いたしました。これからの看護専門学校の同窓会活動は、藤田学園同窓会の事業計画に全面的に協働した活動をしていきます。卒業生の皆さまが部会の活動を計画される際には、藤田学園同窓会にご相談いただきますようよろしくお願いいたします。

看護専門学校同窓会会長 小島登 美香

同窓会からのお知らせ

「23名簿 藤田学園同窓会誌」2023年9月発行予定

同窓会では2023年9月に株式会社サラトより「23名簿 藤田学園同窓会誌」の発刊を予定しています。ご登録いただいた個人情報は藤田学園同窓会個人情報保護方針に則り厳重に管理いたします。特に本人申し出の名簿掲載拒否項目と電話番号、メールアドレスなどが外部へ出ることは一切ありません。

会員名簿は会員相互のネットワークであり、会員と母校を結ぶ「縊」であります。会員名簿を多くの皆様にご購入いただき、活用していただくことを願っております。一方でその取り扱いには個人情報保護法に基づき十二分のご配慮いただきたいと思います。

「フジタEXPO2023と2023ホームカミングデーの開催を検討」

藤田学園の新しいイベント「フジタEXPO2023」の開催が2023年10月26日(木)~28日(土)に予定されています。藤田学園と同窓会ではこのフジタEXPOとホームカミングデー(HCD)のドッキングを模索しております。

新型コロナウイルス感染症蔓延のため、卒業生が一堂に会するHCD(懇親会など)の実施は難しいことが予想されますが、実現可能な企画を検討しています。詳細が確定しましたら、ホームページその他でご案内いたします。

同窓会へのお問い合わせ

〒470-1192

愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98

藤田学園同窓会事務局

電話・ファックス：0562-93-5674

e-mail：dosokai@fujita-hu.ac.jp

<http://www.fujita-hu.ac.jp/dosokai/>



第43回 一般社団法人藤田学園同窓会 総会議事録

日 時：2022年11月12日(土)15:00～16:00

場 所：藤田医科大学3号館2F218講義室

代議員：36名(内委任状17名)／56名

理 事：13名／21名

監 事：1名／3名

顧 問：1名

事務局：1名

開会に先立ち、志半ばにして逝去された同窓生と藤田学園教職員に対し黙祷が捧げられた。

I. 開会の辞

II. 会長挨拶

III. 議長選出

定款19条に則り、10月18日に開催された理事會の承認により副会長が議長に選任された。

IV. 代議員紹介

各部会から選出された2019年度～2022年度代議員が紹介された。

V. 議事

1. 2021年度事業報告

①2021年度において以下の事業が行われたことが報告された。

1) 新規学生会員の受け入れ

①医療科学部、保健衛生学部、医学部の新入学生619名が入会

2) 会員相互の親睦や扶助に関する事業

①2021年オンデマンドホームカミングデーの開催（2021年10月30日）

②2022オンデマンドHCD開催予告（2022年10月29日開催）

③卒後50年記念者への表彰案内

3) 部会・支部活動支援等に関する事業

該当なし

4) 会員の教育と資質向上に関する事業

①日本ヒューマンヘルスケア学会第5回学術集会（2022.9.24開催）

5) 学生会員育成に関する事業

①藤田医会より奨学金基金として100万円の寄付を拝領

6) 会員の就職活動支援に関する事業

①藤田学園キャリア支援課と連携し、卒業生就職先の内部資料の作成

7) 機関誌、会員名簿及び動向調査に関する事業

①「第41号あけぼの杉」の発刊、「第42号あけぼの杉」の編集

②会員数：33,586名(大学院2,565名)、住所不明者：6,674名、物故者：389名

8) 学校法人藤田学園の後援に関する事業

①学生会員への入学記念品及び卒業記念品の贈呈

②学生環境改善プロジェクト奨学寄付／学生専用バス運営支援寄付

9) その他の事業

①会議の開催（総会1回、理事会9回開催）

②同窓会事務の運営・管理

10) 奨学金基金事業

①卒業生8名より奨学金返還、内2名が本会計年度で完済

②9名の奨学生を採用、奨学金貸与

③藤医会より100万円の寄付を拝領

11) 獨創一理基金事業

①医学部卒業アルバムの購入

②獨創一理祈念館と七栗経長祈念室の整備・維持・運営

2. 2021年度決算報告

2021年度収支について収支決算が報告された。

3. 2021年度監査報告

2021年度収支及び財産目録について監査報告が行われた。

【採決】2021年度事業、収支決算、監査報告について採決の結果、満場一致で承認された。

4. 一般社団法人藤田学園同窓会細則の改訂について

1) 細則 第1章総則 第3条（支部）に、5.支部の運営に関する規則は、各支部の独立性を尊重し、各支部においてこれを定める。

2) 附則5. この改訂細則は令和4年11月12日から施行する。

上記2項の追加・改訂が提案され審議が行われた

【採決】細則の改定について採決の結果、満場一致で承認された。

5. 2022年度事業計画案

以下の事業計画が提案された。

1) 新規学生会員の受け入れ

①医療科学部、保健衛生学部、医学部の新入学生634名が入会

2) 会員相互の親睦や扶助に関する事業

①2022年オンデマンドHCD開催（2022.10.29(土) 9:00～）

②2023HCDの企画・開催を検討

③学会などにおける親睦会支援

④中日新聞社会事業団を通して激甚災害支援

3) 部会・支部活動支援等に関する事業

①支部設立支援、支部総会・親睦会支援

②同窓会部会の支援

③県人会開催の支援

4) 会員の教育と資質向上に関する事業

①学会、学術集会、研修会、研究会の支援、会員の研究補助

5) 学生会員育成に関する事業

①藤田学園同窓会奨学金基金募金の実施

6) 会員の就職活動支援に関する事業

①キャリア支援課と協力し、会員の就職活動支援

7) 機関誌、会員名簿及び動向調査に関する事業

①機関誌「第42号あけぼの杉」発行、「第43号あけぼの杉」編集

②名簿管理メンテナンス、「23名簿」発刊

8) 学校法人藤田学園の後援に関する事業

①教育の支援として、学生の学会参加支援、入学記念品・卒業記念品の贈呈、学園祭の協賛・補助、学生環境改善プロジェクト支援等々

9) その他の事業

①会議の開催（総会、理事会の開催）

②代議員改選、理事改選、監事選任、事務局長選任

③愛知県私立大学同窓会連合会員校として活動

④個人情報漏洩対応損害賠償保険継続

⑤ホームページ管理、同窓会事務の運営・管理

10) 奨学金基金事業

①基金の充実、奨学金貸与と返還金の受領

11) 獨創一理基金事業

①卒業アルバムの購入

②学園と協力して獨創一理、祈念室の運営・維持・七栗校地庭園環境整備

③獨創一理ワークショップの開催

6. 2022年度予算案

2022年度予算が提案された。

【採決】2022年度事業計画及び予算について採決の結果、満場一致で承認された。

7. 2022年度の代議員、理事及び役員、監事、名誉会長、顧問、事務局が紹介された。

8. 質疑応答

特になし。

VI. 議長解任

VII. 閉会の辞



2023年度 入学試験スケジュール

藤田医科大学 大学院

研究科・専攻(課程)	試験区分	募集人員	出願期間(締切日必着)	試験日	合格発表日	試験会場
医学研究科 /医学専攻(博士課程) /医科学専攻(修士課程)	第一次募集	博士: 52名 修士: 5名	7月 6日(水)から 7月15日(金)まで	8月 1日(月)	8月26日(金)	本学
	第二次募集		1月11日(水)から 1月20日(金)まで	2月 2日(木)	2月24日(金)	本学
医学研究科 /病院経営学・管理学専攻 (専門職学位課程)	第一次募集	10名	1月11日(水)から 1月20日(金)まで	2月 4日(土)	2月24日(金)	本学
	第二次募集		2月17日(金)から 2月24日(金)まで	3月 4日(土)	3月27日(月)	本学
保健学研究科 /医療科学専攻(博士後期課程) /保健学専攻(修士課程)	第一次募集	博士後期: 8名 修士: 50名	8月15日(月)から 8月26日(金)まで	9月 5日(月)	9月12日(月)	本学
	第二次募集		1月23日(月)から 2月 3日(金)まで	2月13日(月)	2月20日(月)	本学

藤田医科大学 医学部

学科(定員)	試験区分	募集人員	Web出願期間【書類提出期限】	試験日	合格発表日	試験会場
医学科(120名)	ふじた未来入試	高3枠と 専願枠 合わせて 12名	10月 1日(土)から 10月31日(月)まで 【11月 1日(火)必着】	一次: 11月 6日(日)	11月10日(木)	本学
				二次: 11月13日(日)	11月18日(金)	本学
	一般入試	前期	一般枠: 78名 地域枠: 5名	11月28日(月)から 1月11日(水)まで 【1月12日(木)必着】	学科: 1月19日(木)	1月24日(火) 東京・名古屋 大阪
				面接: 1月27日(金) または 1月28日(土)*	2月 1日(水)	本学
		後期	一般枠: 5名 地域枠: 5名	1月24日(火)から 2月24日(金)まで 【2月25日(土)必着】	学科: 3月 2日(木)	3月 7日(火) 東京・名古屋
				面接: 3月13日(月)	3月14日(火)	本学
	共通テスト 利用入試	前期	10名	12月 5日(月)から 1月13日(金)まで 【1月16日(月)必着】	一次: 大学入学共通テスト	2月 9日(木)
				二次: 2月15日(水)	2月17日(金)	本学
		後期	5名	1月24日(火)から 2月27日(月)まで 【2月28日(火)必着】	一次: 大学入学共通テスト	3月 7日(火)
				二次: 3月13日(月)	3月14日(火)	本学

* 出願時に希望する日を選択してください。出願後の面接試験日の変更は認めません。

藤田医科大学 医療科学部・保健衛生学部

募集人員・入試日程

学 部	学 科	定員	総合型選抜	推薦入試		一般入試		共通テスト利用入試		共通テスト プラス入試	
				藤田フロンティア入試	一般公募制 [専願]	一般公募制 [併願]	前 期 ^{注1}	後 期	前 期	後 期	
医療科学部	医療検査学科	140名	5名	30名	15名	60名	5名	15名	5名	5名	
	放射線学科	90名	5名	20名	10名	30名	5名	7名	5名	8名	
学 部	学 科	定員	ふじた独創 入試	一般公募制 A [専願]	一般公募制 B [専願]	一般公募制 [併願]	前 期 ^{注1}	後 期	前 期	後 期	共通テスト プラス入試
保健衛生学部	看護学科	135名	3名	35名 ^{注2}	—	—	65名	10名	14名	3名	5名
	リハビリテーション学科 理学療法専攻	70名	3名	10名 ^{注3}	—	—	38名	5名	8名	3名	3名
	リハビリテーション学科 作業療法専攻	45名	2名	8名 ^{注4}	—	—	24名	2名	5名	2名	2名

注1 [A日程] [B日程] ともに合わせた人数

注2 一般公募制推薦 A [専願]、専門高校(看護)推薦若干名、社会人自己推薦若干名、指定校推薦・MOU指定校15名程度を合わせた人数

注3 一般公募制推薦 A [専願]、一般公募制推薦 B [専願] 若干名、MOU指定校を合わせた人

注4 一般公募制推薦 A [専願]、一般公募制推薦 B [専願] 若干名、一般公募制推薦 [併願] 若干名、指定校推薦を合わせた人数

試験区分	出願期間(締切日必着)	試験日	合格発表日	試験会場
藤田フロンティア入試(総合型選抜)	9月17日(土)から 10月 3日(月)まで	10月16日(日)	11月 1日(火)	本学
ふじた独創入試(総合型選抜)	11月 1日(火)から 11月14日(月)まで	11月19日(土)	12月 1日(木)	本学
一般入試(前期)	A日程	1月 4日(水)から 1月18日(水)まで	1月25日(水)	2月 3日(金)
	B日程	1月 4日(水)から 1月21日(土)まで	2月 1日(水)	2月 9日(木)
一般入試(後期)		2月 6日(月)から 2月21日(火)まで	3月 1日(水)	3月 8日(水)
共通テスト利用入試(前期)		1月 4日(水)から 1月21日(土)まで	大学入学共通テスト 1月14日(土)・15日(日)	2月15日(水)
共通テスト利用入試(後期)		2月28日(火)から 3月10日(金)まで	3月17日(金)	
共通テストプラス入試		1月 4日(水)から 1月21日(土)まで	一般入試(前期)[A日程][B日程] 大学入学共通テスト	2月15日(水)

(注)募集内容については、2023年度学生募集要項で必ずご確認願います。

入学試験に関する
問い合わせ先

〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98
藤田医科大学
医学研究科 TEL 0562-93-2898
保健学研究科 TEL 0562-93-2504・9080

URL <https://www.fujita-hu.ac.jp/>
藤田医科大学
医学部 TEL 0562-93-2493
医療科学部・保健衛生学部 TEL 0562-93-9959